

授業概要

教育の歴史は長い。しかしながら、教育について自覚的に考察されてきた歴史は 2,500 年程度のものである。また、教育はかなり広範な概念であり、教育イコール学校というほど狭いものでもない。しかし、現代の教育は学校という巨大な装置に支配されていることは否定のしようがない。現にこの授業も埼玉学園大学という「学校」で行われるのであるし、近代以降の教育の歴史は学校が教育の専売特許を得ていくプロセスということも可能である（もちろんそれに対する異議申し立ても存在するのだが）。

そこで、教育というものがどのように考えられ、それが歴史的にどのような変遷をたどったのかを講義する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション：授業の方法や進め方
第 2 回	「教育」とは何か（1）：ディスカッション（「教育」をめぐるイメージについて）
第 3 回	「教育」とは何か（2）：教育・学習・人間形成
第 4 回	教育思想の歴史（1）：古代ギリシア・中世の教育思想
第 5 回	教育思想の歴史（2）：17～19 世紀の教育思想
第 6 回	教育思想の歴史（3）：18・19 世紀の教育思想・教育学説
第 7 回	教育思想の歴史（4）：19・20 世紀の教育思想・教育学説
第 8 回	日本の教育の歴史（1）：近代学校制度の成立
第 9 回	日本の教育の歴史（2）：近代学校制度の展開
第 10 回	日本の教育の歴史（3）：戦時体制下の教育
第 11 回	日本の教育の歴史（4）：戦後教育のあゆみ（1）（1950 年代まで）
第 12 回	日本の教育の歴史（5）：戦後教育のあゆみ（2）（1960 年代以降）
第 13 回	現代教育の諸問題（1）：幼保一元化
第 14 回	現代教育の諸問題（2）：学校間接続
第 15 回	現代教育の諸問題（3）：生涯学習
第 16 回	定期試験

到達目標

本科目は「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を講じる科目として設定されている。これらの諸点を理解するとともに、それが現在の教育とどのように関連しているかを考えられるようになってほしい。

履修上の注意

教職に就く上でこの程度は知っておいてほしい知識というものがある。この科目では、いわば頭の中にそのような知識をプロットする作業を行うことにする。よって、この授業はある程度の「覚える努力」が必要だが、がんばって乗り切っていただきたい。

予習・復習

予習：シラバスに掲げる項目（詳細なものを初回授業時に示す）について、参考文献やインターネットなどで確認しておく。

復習：講義内容を定着させるとともに、各授業時に示す参考文献にもあたってほしい。

評価方法

授業内で実施する小テスト（25%×2）・定期試験（50%）

テキスト

テキストは指定しない。
適宜資料を配布する。

授業概要

第 9 回目までは、主として教育の理念と歴史及び、取り上げた教育学者（哲学者を含む）の教育思想と教育方法を講義する。その基礎的知識をもって、第 10 回からは具体的な教育動向について講義する。また第 14 回と第 15 回は、教職と本授業の関連性を確認しつつ、全授業を振り返る作業を行う。

授業計画

第 1 回	授業ガイダンス 授業内容の説明・授業方法の説明
第 2 回	海外の教育思想史と教育方法①（古代ギリシャの教育からヘルバルト学派の教育まで）
第 3 回	海外の教育思想史と教育方法②（20 世紀新教育運動とそれ以後の教育）
第 4 回	日本の教育思想史と教育方法①（古代・中世の教育まで）
第 5 回	日本の教育思想史と教育方法②（近世の教育まで）
第 6 回	日本の教育思想史と教育方法③（明治・大正期の教育とそれ以後の教育）
第 7 回	教育制度①（公教育制度史 イギリス・フランス・ドイツ・アメリカ）
第 8 回	教育制度②（公教育制度史 日本）
第 9 回	戦後教育思想史・戦後教育制度史（教育改革を含む）
第 10 回	生涯学習（生涯教育と生涯学習及び社会教育）
第 11 回	人権・同和教育 （「人権教育・啓発に関する基本計画」と「人権教育の指導方法の在り方について」（第 1 次～第 3 次とりまとめ））
第 12 回	家庭教育（しつけと虐待 及び今日の家庭教育の意義）
第 13 回	民間教育（戦後の民間教育運動と学校外で行われる教育）
第 14 回	教職における教育原理の意義（教えることと学ぶことの意義）
第 15 回	教育とは何か（教育原理の授業内容と自分が経験した「教育史」との比較）
第 16 回	定期試験

到達目標

教育の基本的概念を身に付けるとともに、その概念を体系的に学び、現在の教育実践との相互関係を理解する。また、教育の制度に関する基礎的知識を身に付け、過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。授業終了時には、身に付けた知識をもとに、今後の教育の在り方を考察できるようになる。

履修上の注意

第 1 回のガイダンス授業の際に、授業方法・評価方法・予習・復習について詳細に説明する。成績評価に関わる内容であるため必ず出席すること。なお、第 1 回目の授業に出席できない特別な理由がある場合（あった場合）には申し出て、配布資料を必ず受け取ること。

予習・復習

予習：授業の最後に示された次回の内容について、関連する文献等を読んでおくこと。

復習：毎回の授業で出題された課題を確認し、理解ができていない場合には、プリントに示されている参考文献等をもう一度確認しておくこと。

評価方法

受講態度 10%・提出物の内容 10%・学期末のテスト 80%を基本とし、総合的な観点から評価を行う。教職に関する科目のため、成績評価は厳しい態度で行う。なお、履修者の状況によっては中間テストを行う場合がある。評価方法の詳細は、第 1 回のガイダンス授業で説明する。

テキスト

毎回プリントを配布する。中央教育審議会答申、憲法、教育法規（特に、教育基本法、学校教育法）等を適宜参照する。